

## 2021年7月18日開催：杉並区居住支援セミナー：報告

記：企業組合労協センター事業団杉並エリアスタッフ 矢野 大樹

開催日：

7月18日（日曜日）

会 場：

高井戸地域区民センター第1・2集会室

登壇者：

（講師・コメンテーター）

山本美香 氏 東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科教授

（コーディネーター）

菅原英倫 氏 企業組合労協センター事業団練馬エリアマネージャー

（パネラー）

吉中由紀 氏 暮らしサポート・ウィズ理事長

全国居住支援法人協議会理事

瀬戸大作 氏 パルシステム神奈川職員

反貧困ネットアーク事務局長

内容：

参加は、ウェブから20名、現地参加が29名の合計49名いらっしやった。緊急事態宣言の最中で開催した事もあり、一部の行政関係者はオンライン参加、という形式で参加して下さった。

はじめに、講演で山本さんにご登壇頂き、居住支援制度の内容や制度にあたっての課題についてを軸にお話しがあった。その中で、居住とは個人のアイデンティティを支える・社会活動・居場所等を含むことを話されていた。

つぎに、講演を受けてのパネルディスカッションでは、吉中さんより、全居協での居住支援活動の普及拡大や、貸主や自治体に向けた研修やアドバイス事業の説明がされた。また、居住支援法人が取り組んでいる住宅セーフティネット制度を行政区はじめとする団体同士が理解し、横断的に使えるような制度にしていく必要があると提言された。

瀬戸さんからは、諸々の制度の説明があったが、現場から見えない制度であることが現



状で、活動や取り組み自体があまりにも「民」や企業へ偏っていないか、それでも進めなければならない横軸連携があるからこそ今回のセミナーへ参加が出来た、と、お話しがあった。今後、ワーカーズコープやNPO法人てんぐるま、そして、居住支援に携わっておられる諸団体と連携・推進を協同で取り組む事が課題解決の第一歩となりうる可能性が大いにあると本セミナーを受けて感じた。その中で出来る取り組みとしては、居住支援法人と制度の擦り合わせや理解・



実践が出来る機会の創出、横軸連携の真髓を模索していくことだと考える。こういった取り組みが今後さらなる居住支援の拡充に繋がられるよう真摯に取り組んでいく。

